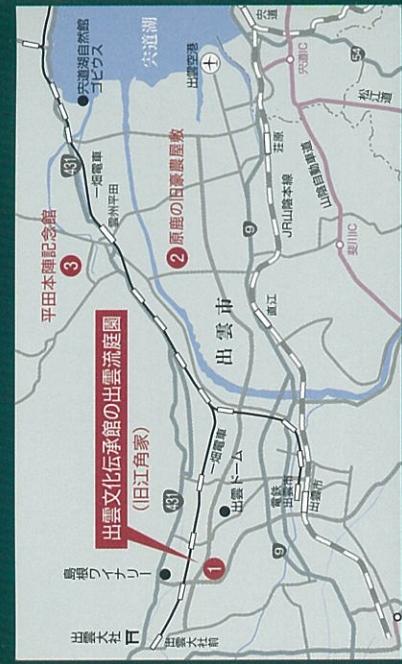


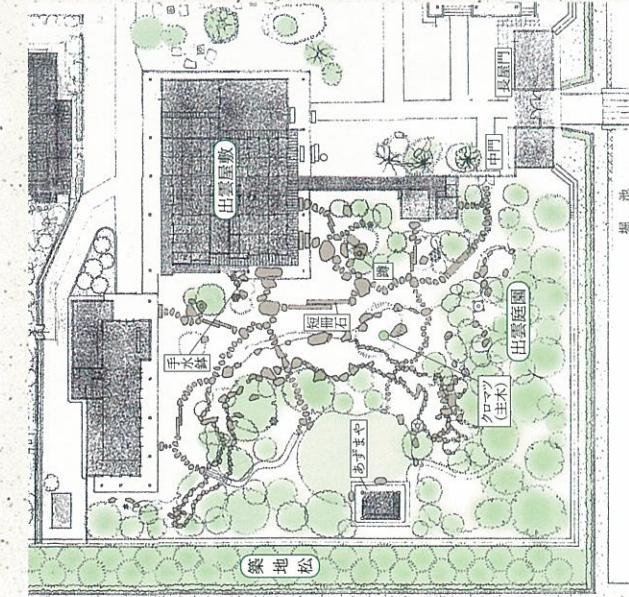
「出雲流庭園」の特徴

出雲流庭園の特徴は、平野部では屋敷の北と西側に冬の強い季節風を防ぐため、築地松が植えられています。庭は表座敷（客座敷）の南側に設けられ、大規模になると西側にも広がります。また、砂を敷きつめた枯山水庭園ですが、常緑樹を添えます。また、砂を敷きつめた枯山水庭園ですが、築山や石組みは控えめで、巨大な短冊石と踏分石（分歧点の飛石）が配され、またやや高く据えた飛び石など平面構成を重視する特徴があります。このほか蹲、手水鉢などが配されており、茶庭の要素もうかがえます。



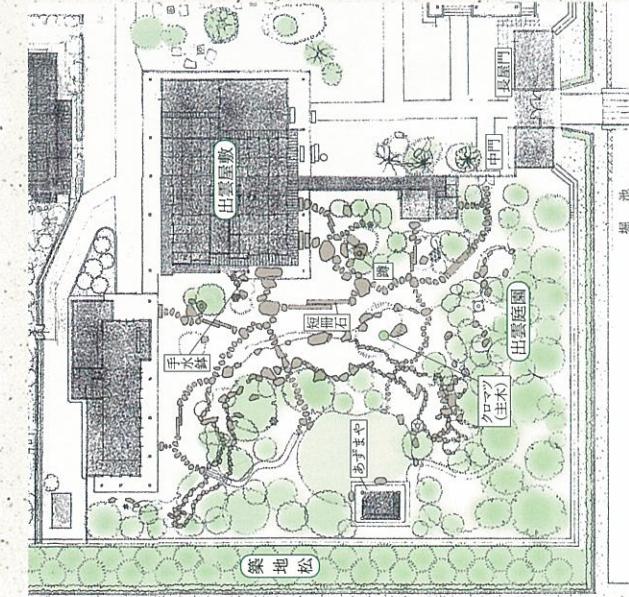
① 出雲文化伝承館の出雲流庭園(旧江角家)

〒693-0054 島根県浜田市浜町520番地 TEL.0853-21-2460
公開時間 9:00～17:00 ※入館は午後4時30分まで
休館日 月曜（祝日の場合は開館）、年末年始



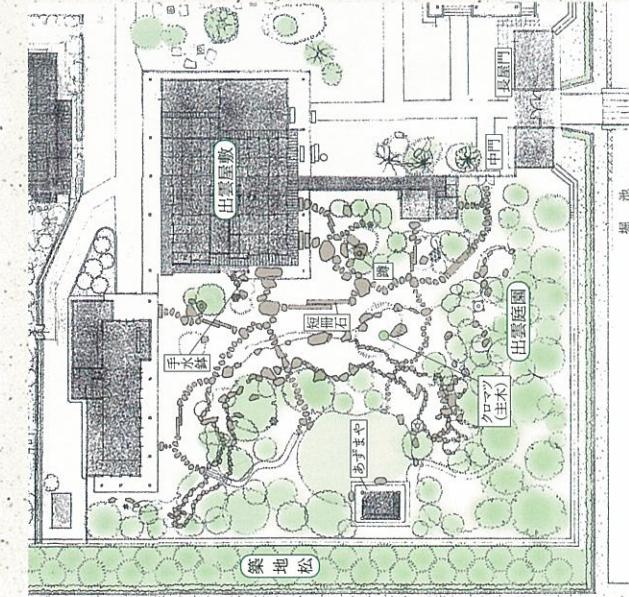
② 原鹿の旧豪農屋敷の庭園(旧木佐家)

〒699-0613 島根県出雲市斐川町原鹿640-1 TEL.0853-72-9747
公開時間 9:00～17:00 ※入館は午後4時30分まで
休館日 月曜（祝日の場合はその翌日）



③ 平田本陣記念館の庭園(旧木佐家)

〒691-0001 島根県出雲市平田町515番地 TEL.0853-62-5090
公開時間 9:00～17:00
休館日 火曜、年末年始



いざれも、室内からの庭園見学は無料です。

出雲文化伝承館

〒693-0054 島根県出雲市浜町520番地 TEL.0853-21-2460

編集協力：島根県技術士会

出雲文化伝承館

出雲文化伝承館の短冊石

**ZUM
GARDEN**

—出雲流庭園—

「出雲流庭園」のご紹介

出雲地方（島根県東部）には、特徴のある平庭枯山水様式の庭園があり、これを「出雲流庭園」と呼ぶことがあります。

「出雲流庭園」とは江戸時代末期から、昭和の初めを中心に築かれた庭園で

豪農、豪商などの大きな財力を背景に形成され、豪農、豪商を中心とした庭園で、平野部を中心に散在しています。

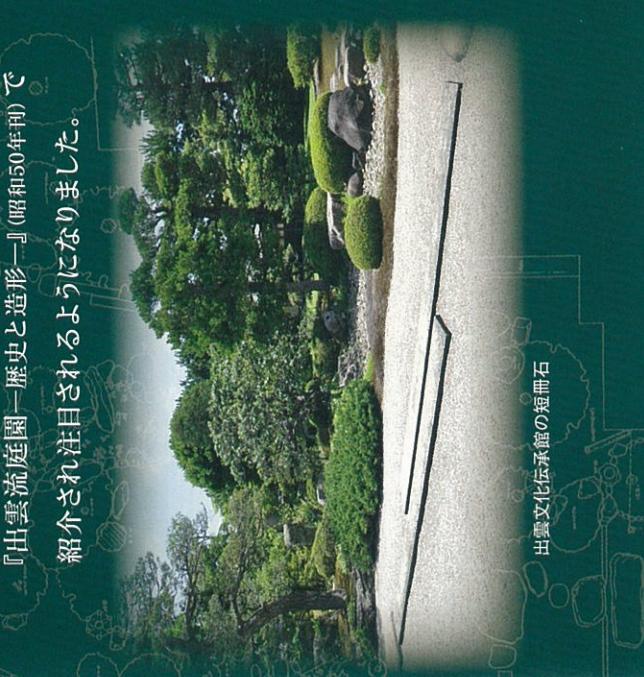
また、茶庭の要素も見られ、茶の湯が盛んとなった

当時の様子がうかがわれます。

特に宍道湖西側に広がる出雲平野には、「出雲流庭園」の代表的な名庭が多くござります。

当地のこの庭園は、『出雲流庭園—歴史と造形—』（昭和50年刊）で紹介され注目されるようになりました。

「出雲流庭園」は、最初に築かれた庭園で、現在も多くの庭園が存在します。

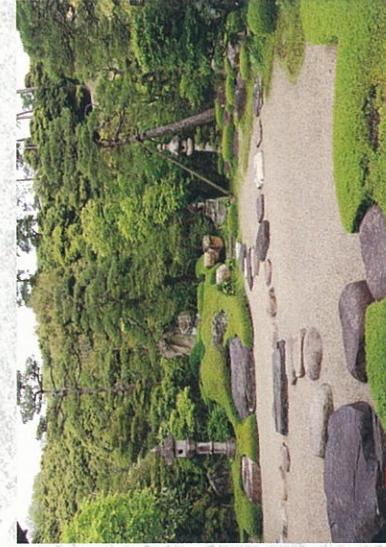




原鹿の旧豪農屋敷の庭園 (旧江角家)

島根県有数の地主農家であった原鹿江角家(斐川町)は、現在は「原鹿の旧豪農屋敷」として公開されています。築地松を含めた壮大な屋敷林をはじめ、当地でも最大級の短冊石(4.6m)は必見です。

*出雲市斐川町原鹿640-1〈室内からの見学は無料〉



平田本陣記念館の庭園 (旧江角家)

木佐家(平田町)は江戸時代に本陣を務めた商家で、平田本陣記念館に移されています。小高い築山に配された主木のクロマツや高く据えられた飛石の配列も美しく、出雲流の特徴を上品にまとめています。

*出雲市平田町515番地〈室内からの見学は無料〉

出雲地方の風土と歴史、そして茶の湯文化が息づく出雲流庭園。

出雲文化伝承館の出雲流庭園 (旧江角家)

◆ 短冊石
短冊形の切石を2枚ずらして配置した筏打ちが、庭のアクセントとなっています。その長さは4m40cmもあり、この巨大さと重なりの深さが出雲流の特徴で、当地では短冊石と呼ばれています。この短冊石は花崗閃绿岩(御影石)で雲南や奥出雲地方で切り出されたと思われます。

◆ 大型の踏分石
ふつう飛石の据付の高さは地面から3~6cm程度とされますが、出雲流では積付けられています。また踏分石は大振りなものが好まれる傾向にあり、平面構成の美しさを楽しめます。



主木のクロマツ



イヌマキ



モチノキ



出雲市指定文化財
長屋門・出雲屋敷
出雲流庭園
*出雲市浜町520番地
(室内からの見学は無料)



◆ 庭木について
出雲流庭園の主木はクロマツです。そのまわりにイヌマキ、モチノキ、ヒバなどの常緑樹が配されています。